河川15　野村ダム（愛媛県）

No.	資料名	ストック効果に関する記述
愛媛16	愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史 地誌Ⅰ（総論）」（愛媛県、1983年）、360-361頁	南予用水 　愛媛県南予地域のうち宇和海沿岸はみかんの主産地を形成している。そこは樹園地のほとんどが急傾斜地の段々畑で、灌漑施設は皆無に近く毎年干ばつの脅威にさらされてきたために、永久的な用水確保が強く望まれてきた地域である。 　これに対して、肱川上流の建設省の直轄工事で、昭和五六年に野村ダム（貯水量一六〇〇万㎥）が完成した。これは多目的の野村ダムを主水源とし、南予発展の基礎をなす農業用水を確保するため、国営事業により幹支線路を新設した。 　これにより宇和島市ほか一市七町の五六七三haに及ぶ樹園地に、灌漑用水が補給され、農業生産基盤の改善と相まって経営の合理化と安定が図られるとともに、一六万人を給水人口とする上水道事業を実施する。水道用水は北宇和郡三間町を加え二市八町となる。
愛媛97	宇和町誌編纂委員会編「宇和町誌　Ⅱ」（宇和町、2001年）、54頁	野村ダム （中略） 　中でも水特法による整備事業のうち、最も大きな比重を占める道路工事においては、特に地域の主要幹線である県道宇和野村線、大洲城川線の整備に重点が置かれた。両線とも貯水池付近では水没前までカーブが多く幅員も狭いものであったが、整備事業により幅員の拡張及びトンネルと橋梁の建設による道路の直線化が図られ、地域間交通の時間短縮に対して大きな効果をもたらすことになった。
愛媛101	保内町誌編纂委員会編「改訂版　保内町誌」（保内町、1999年）、505頁	南予用水事業の事業効果 　最も大きいものは干ばつ時のかん水である。適正なかん水で品質向上を図ることはもちろんであるが、更に期待するのは農薬散布による防除作業である。労働力の軽減を図ると共に、スプリンクラー散布により人体の農薬被害からの解放と、夏場における防除作業の重労働が解消された。その他、連帯意識の高揚や、防除作業の省力化による余剰労働力の有効活用によって所得の向上が期待されることも挙げることができる。
愛媛104	続伊方町誌編集委員会編「続　伊方町誌」（伊方町、2005年）、390頁	野村ダム建設事業 （中略） 　野村ダムは、建設省が事業主体となり総事業費は二八六億円、昭和四八年度に着工し、昭和五六年度に工事が完成、洪水被害の軽減（洪水期洪水調節容量三五〇万トン）、農業用水・水道用水（洪水期利水容量九二〇万トン、内農水七八〇万トン、上水一四〇万トン）を供給する水源となった。
愛媛117	宇和島市誌編纂委員会編「宇和島市誌下巻」（宇和島市、2005年）、1176頁	南予用水事業 （中略） 　南予用水事業の完成が、断水や干ばつのない経済的な安定はもとより、住民生活のなかで、「命の水」に対する安心感など精神的な安定をもたらし、潤いと活力に満ちあふれた南予地方、宇和島市の発展にはたす役割は大きく住民生活の安定に大きく貢献している。 　蛇口から水がでることが当たり前のようになりつつある昨今、断水や干ばつと戦った当時の大変な苦労、悲惨な経験、工事関係者や用地提供者の協力、官民一体となった「命の水」を求めた活動の上に成り立っていることを忘れてはならない。

河川15　野村ダム（愛媛県）

No.	資料名	ストック効果に関する記述
愛媛135	西宇和郡町教委連合会編「西宇和のくらし」（西宇和郡町教委連合会、2000年）、106頁	南予用水 　西宇和郡には、水がたりなくてこまっていたところがたくさんありました。それで、「野村ダム」から水をひく南予用水の工事がすすめられていましたが、あとわずかをのこしてほとんどできあがりました。この用水は、佐田岬半島の人びとにとっては、めぐみの水になります。
愛媛207	国土交通省四国地方整備局野村ダム管理所編「水と歩み、地域と歩む　野村ダムの20年」（国土交通省四国地方整備局野村ダム管理所、2003年）、頁なし	野村ダム 　野村ダムは、愛媛県最大の川である肱川の上流に位置します。 　肱川の流域には数か所の平地がありますが、平地と平地の間は谷が挟まり、水の流れを滞らせることから、これまでたびたび水害をもたらしてきました。 　また流域の西側にあたる宇和海や伊予灘に面した海岸部は、国内でも有数のかんきつ類の生産地として有名ですが、ここでは生活用水と農業用水の不足に悩んできました。 　昭和57年の春に完成した野村ダムは、この2つの地域課題を解決するため、約20年の間、地域とともに歩んできました。 野村ダム周辺の整備 　野村ダムでは建設当時にダムサイトの公園や河畔の明間公園が整備されました。 　これらの施設は、今は人びとの憩いの場となって親しまれているだけでなく、季節を通じた各種のイベント会場としても積極的に活用されています。 南予用水 　南予用水は、受益地域のかんきつ農業に大きな恵みをもたらしました。 　渇水期にも安定してかんがい用水を確保できるだけでなく、スプリンクラーによる散水が可能になったことによって農作業を容易にし、その生産性を向上させるとともに、若い人びとの定着や集落営農の広がりなどによる地域の活性化を実現しつつあります。
愛媛316	八幡浜市誌編纂会編「合併10周年記念版　八幡浜市史　第1巻　歴史編」（八幡浜市、2018年）、200-201頁	八幡浜市の南予用水 　八幡浜市での南予用水は、野村ダムからの水が布喜川調整池に貯められ、三本木隧道など八つの隧道を経て伊方調整池に送られている。（中略） 　この結果、昭和四二（一九六七）年のときのような水不足による被害にあわない態勢ができ、南予の農業用水・生活用水が確保されてきた。先人の苦労が現在に生きる私たちに、恩恵として伝えられている。
四国8	土木学会四国支部編「四国に豊かさと潤いをもたらした土木事業」（四国建設弘済会、1995年）、84頁	野村ダム周辺の環境整備 （中略） 　周辺の環境整備を実施したことにより、毎年五月にはダム祭りと称して朝霧湖一周マラソン、ミス野村コンテスト、カラオケ・相撲大会が、また八月には納涼祭と称して花火大会、ガーデンパーティなどが開催されるなど、ダム湖の年間利用者数は約一二〇千人、ダム見学者は一千人に達しており、地域の憩いの場として親しまれている。